

KSPLICE: ダウンタイムなしで ORACLE LINUX をアップデート

KSPLICEによりダウンタイムなしで ORACLE LINUX をアップデート

主な特長

- 再起動に必要な監視時間を短縮することで、運用コストを削減。
- アプリケーションの可用性とアップタイムの向上。
- OS アップグレードを直ちにインストールする機能により、セキュリティの強化を実現。
- Linux で真の企業サポートを実現。

主な機能

- ロールバック機能。** Ksplice を使用して適用できるアップデートは、再起動なしで元に戻すことができます。
- パフォーマンスへの影響なし。** Ksplice はパフォーマンスに悪影響を及ぼすことはありません。仮想化エージェント、デーモン・エージェント、システム・エージェントは必要ありません。
- Web インタフェースと API。** Web インタフェースを介すか、プログラムにより REST API を介すことにより、一箇所からすべてのシステム上の Ksplice のステータスの表示と管理が可能です。
- 仮想化に対応。** Ksplice は、仮想化環境で完璧に機能します。

Oracle Linux の一部として現在提供されている Ksplice は、実行中に Linux オペレーティング・システム(OS)のカーネルを更新するため、再起動や停止の必要性がありません。このユニークな機能を提供できるのは Oracle Linux のみで、Linux のアップデートのたびに再起動して中断させたり、運用コストがかさむような負担をチームに負わせることなく、重要な Linux アップデートを適用することができます。

再起動のコスト

重要な新しいセキュリティおよび信頼性に関するパッチを含む Linux カーネル・セキュリティ・アップデートは、毎月ほぼ一度リリースされます。アップデートを怠るとセキュリティが低下するため、業界の規定およびベスト・プラクティスによって企業はこれらのセキュリティ・アップデートとパッチを定期的に適用することが要求されます。システム管理者は、既知のベスト・プラクティスと、費用が高いだけではなく運用に悪影響を及ぼすシステムの再起動の間での選択を余儀なくされます。Ksplice は、Oracle Linux に完全に統合されているため、Oracle Linux Premier Support のお客様は、再起動せずにアップデートを適用できます。それによって Oracle Linux のセキュリティ、信頼性、および可用性が向上します。

Ksplice を使用する理由

システム管理者は、Ksplice により価値の高いパッチの適用時のコストとダウンタイムを低減しながら、セキュリティ、柔軟性、および制御性を向上することができます。

- 運用コストの低減。** 再起動には、高い監視費用が伴います。再起動は前もって計画する必要があり、再起動時には複雑な問題が発生することもあります。たとえば、サービスが正しく開始しなかったり、中断によって別のシステムで複雑な問題が発生したりすることがあります。Ksplice を使用すると、このような問題を避け、別のことに集中することができます。カーネル・アップデートのためのサーバーの再起動に夜間または週末長時間費やす必要がなくなります。さらに、再起動による機能停止についてシステム・ユーザーとコーディネートする必要もなくなります。
- 可用性の向上。** Ksplice では、実行中のアプリケーションや、それらのアプリケーションを使用しているユーザーの作業を中断することなく、数秒でアップデートをインストールできます。アップデートをネットワークにロールアウトする前に、システムの現在のステータスをすばやくチェックできます。アップデートのインストールにダウンタイムが必要ないため、システムの可用性はかつてないほど高くなります。重大なアップデートとセキュリティ・パッチは、再起動なしで適用されます。なんらかの理由でアップデートをロールバックする場合も、再起動なしで簡単に行うことができます。
- セキュリティの向上。** 都合の良いときまでアップデートのインストールを延期したいと考えがちですが、それは非常に危険です。最新の状態になっていないシステムは、セキュリティ上の周知の問題に対して脆弱になります。Ksplice を使用すると、システムを最新で安全な状態に簡単に保つことができるので、アップデートを遅れずに導入することで、脆弱性のある時間を短縮することができます。Ksplice では、OS アップデートによるコンプライアンスを大きく向上させることができます。

- **Linux で真の企業サポートを実現。**Oracle Linux Premier Support のお客様は、「Premier Backports」とともに Ksplice によるダウンタイムなしの診断およびセキュリティ・パッチ(実行している OS バージョン用の修正プログラム)を利用できます。アップグレードは要求されません。オラクル・ソリューションを実行しているお客様には、スタック全体に対して単一のサポート窓口をご利用いただけます。

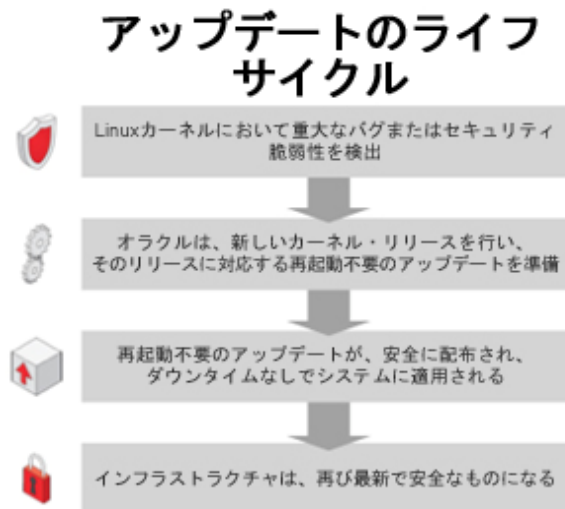


図 1: Ksplice を使用すると Linux カーネル・アップデートにはシステムの再起動は必要ありません

Ksplice の仕組み

[Oracle Linux Premier Support](#) のお客様が利用可能なオラクルの Ksplice Uptrack サービスには、アクセス・キーが必要です。ユーザーは、Oracle Linux Premier Support に登録することでアクセス・キーを取得することができます。このキーにより Unbreakable Linux Network (ULN) にアクセスできます。その後は ULN を介して Ksplice アクセス・キーを要求できます。

Ksplice のインストール後は、再起動を必要とせずに、重要な Linux カーネル・アップデートをすべて簡単に適用することができます。インストールには設定の変更も初期の再起動も必要ありません。内部では Ksplice は、Linux カーネル・モジュールをロードします。このモジュールでは実行中のカーネルの一部を再度書き込むことにより更新を適用します。

確立した実績

100,000 台以上の稼働システムを実行する 700 人以上のお客様がすでに Ksplice を使用しています。再起動を要さないアップデートを 2,000,000 以上インストールした業績を持つ Ksplice は、Linux システムを最新の状態に保つための事実上の標準となりつつあります。

当社へのお問い合わせ

Oracle Linux Premier Support および Ksplice の詳細は、oracle.com/linux をご覧ください。または、サポート・サービス(+1.800.ORACLE1)までお問い合わせください。



Copyright © 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的な保証や条件を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否定し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクル社の書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle および Java は、米国 Oracle およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

Intel および Intel Xeon は、米国 Intel Corporation およびその子会社、関連会社の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、許可を受けて使用されており、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD のロゴ、および AMD Opteron のロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、X/Open Company, Ltd. 0911 を介して使用許諾された登録商標です。

Hardware and Software, Engineered to Work Together